

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 6月5日現在

機関番号：12401

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520125

研究課題名（和文） モダニズム後期ヴィジュアルデザインに関する国際比較研究：冷戦期の表象の分析

研究課題名（英文） International Comparative Study on Visual Design in Late Modernism: Analysis of the Cold War Representation

研究代表者

井口 壽乃（IGUCHI TOSHINO）

埼玉大学・教養学部・教授

研究者番号：00305814

研究成果の概要（和文）：モダニズム前期に形成されたヴィジュアルデザインの思想と表現方法は、モダニズム後期における国家的プロパガンダと資本主義的な視覚文化の形成に一翼を担ったことが実証的に解明された。研究代表者と分担者は国内外の調査を行い、ルドルフ・モドレイ、エリック・ギル、L.モホイ＝ナジほかの芸術家たちの知られざる活動を調査し、彼らが英・米国のデザイン界の基盤形成に大きな影響を与えたことを実証した。代表者と分担者は〈20世紀のポスター [タイポグラフィ]〉、〈モホイ＝ナジ/イン・モーション〉、〈エリック・ギル〉の3つの展覧会を企画・開催し、カタログ執筆によって研究成果を一般に公表した。

研究成果の概要（英文）：Our collaborative research has made clear that the modern design theory and expression formed in the early modernism played a role in the formation of visual culture of national propaganda and capitalism in the period of late modernism. Each member visited foreign archives and researched activities of Rudolf Modley, Eric Gill, and L. Moholy-Nagy and other modernists who had great influences upon the formation of design in the UK and U.S.A. The members organized three exhibitions: *20 Century Poster: Typography, Moholy-Nagy / in Motion, and Eric Gill*, and published research papers in the related catalogues.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,900,000	570,000	2,470,000
2010年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2011年度	300,000	90,000	390,000
年度			
年度			
総計	3,700,000	1,110,000	4,810,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学、芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：モダニズム、冷戦、グラフィック、情報デザイン、印刷メディア

1. 研究開始当初の背景

研究開始までに、モダニズム期の特徴である「地域性」と「国際性」の問題が文化の越境と密接に関わっていることが確認され、モダニズム前期(1910年代～1930年代)には、

中東欧諸国（ドイツ、オーストリア、ハンガリー、チェコ）の国家的アイデンティティがグラフィックデザインという視覚伝達手段を通じて、英国、米国そして日本に伝播し変容したこと、そしてグラフィックデザインと

いう造形領域がモダニズム期特有の視覚文化形成に重要な役割を果たしたことが実証的に解明されていた。

さらにモダニズム後期（1940年代～1950年代）において、デザインを通じた文化の越境・伝播が、人の思考や価値判断にいかに関わっているかを、思想と歴史の側面から総合的に検証する必要性があった。

2. 研究の目的

本研究はモダニズム後期のヴィジュアルデザインについて、モダニズム初期に形成された芸術思想と表現方法が、モダニズム後期における国家的プロパガンダと資本主義型消費社会拡大のなかで、いかに視覚文化の環境を構成したかを、①複製メディアにおけるグラフィックデザインおよび②視覚的展示デザインの観点から探求することを目的とする。

3. 研究の方法

本研究では、グラフィックデザインと展示デザインにみる表現手段（①グラフィックと②展示デザイン）を異なる地域（米国、東欧、フランス・ドイツ、日本）での表現を比較しつつ、それぞれの目的（a.プロパガンダ、b.広告、c.教育）を関係づけながら、その構造の総体に、個々の芸術家の作品に関する検証結果を組み込むことによって、モダニズム後期に顕著にみられる視覚言語による造形表現がいかに視覚文化を形成したかを明らかにする。研究代表者と分担者は、それぞれのグループに分かれ、国内外の調査と分析を実施した。さらに各調査結果を分析するために、海外の研究協力者を招聘して、シンポジウムとワークショップを実施し、意見交換を行い研究の深化をはかった。研究代表者と分担者は、3つのデザイン展覧会を企画・実施し、カタログに研究成果を発表した。

4. 研究成果

(1) 冷戦期のプロパガンダと視覚表現との関係を、日本と東欧（ユーゴスラヴィアとポーランド）を比較検討するために、写真史と現代美術の専門家ミランカ・トージッチ教授（ベオグラード芸術大学）、金子隆一氏（日本写真史）、加須屋明子氏（ポーランド現代美術）を招聘して、シンポジウム「写真×プロパガンダ×デザイン」（埼玉県立近代美術館）を開催し、意見交換を行った。

ユーゴスラヴィアの場合は、街頭プロパガンダとして演出された視覚表現（デザイン）にその特徴が顕著に表れている。日本では多くのアマチュア写真家が写真雑誌メディアに投稿することで独自の写真文化を形成している。ポーランドの芸術家は東欧らしさの表現を求められることのジレンマを抱えつ

つ国際性の表現を模索している。講演内容は『埼玉大学教養学部リベラル・アーツ叢書2 写真×プロパガンダ×デザイン』（2010年）にまとめ一般に公開した。

(2) 印刷メディアおよび印刷技術と文字の表現の歴史の変容について、モダンタイポグラフィの思想が形成される1920年代から1980年代までの理論と実践をドイツ、スイス、イギリス、フランスおよび日本の作品を比較検討した。研究代表者と分担者は、多摩美術大学・東京都庭園美術館主催〈20世紀のポスター [タイポグラフィ] —デザインのちから・文字のちから—展、(2011年1～3月)に学術的側面から協力し、カタログに研究成果を執筆、公表した。

さらに本展は〈ペーパーロード 紙的想像の道 展〉ソウル国立デザイン・ミュージアム、韓国(2012年5月)に巡回し、カタログは韓国語に翻訳され出版された。(페이퍼로드 - 紙的想像의 길/Reading Asian Culture on the Paper Road, 퍼넨굿. 두성종이(주), Seoul, Korea, 2012.)

(3) 欧州で理論形成されたモダンデザインの概念が戦後のアメリカでどのように移入され変容したかを、亡命芸術家のL.モホイ＝ナジの中心に検討した。モホイ＝ナジの理論的背景にある「生命中心主義Biocentrism」は、戦後のニュー・バウハウスの教育の根幹にあったことが確認された。

研究代表者は、モホイ＝ナジの〈モホイ＝ナジイン・モーション〉展を企画・開催し、井口壽乃監修『モホイ＝ナジ 視覚の実験室』（国書刊行会、2011）を出版した。展覧会の関連事業として国際シンポジウム「モホイ＝ナジ再考」（京都国立近代美術館、7月）を開催し、研究協力者のK.パシュート教授、O.ポーター教授ならびに国内の研究者と意見交換をし、中欧と戦後の米国ならびに日本との関係について議論した。(井口壽乃「モホイ＝ナジ再考」『デザイン史学』第10号、デザイン史学研究会、2012、7月)

(4) 分担者・山本政幸はイギリス人彫刻家のエリック・ギルのタイポグラフィに注目した展覧会を企画・開催し、ギルの私家版印刷・書体デザインに関する活動の全貌を明らかにした。『エリック・ギル—文字の芸術』（多摩美術大学美術館、2012）

(3)と(4)は共に、デザイン研究を基盤とする日本で最初の本格的な展覧会であり視覚伝達デザイン領域の研究における重要な展覧会と位置づけられる。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 10 件)

1. Hisayasu Ihara, Rudolf Modley's contribution to the standardization of graphic symbols, *Proceedings of IASDR 2011, the 4th World Conference on Design Research*, CD-ROM, 査読有, the Netherlands, November 3, 2011.
2. 田中正明、河野英一、宮崎紀郎、鳥海修、山本太郎、笠井則幸、石川重遠、小宮山博史、後藤吉郎、伊原久裕、山本政幸、『일본에게 타이포그래피를 묻다 (タイポグラフィについて日本に問う)』、*アングラフィックス (ソウル)* 査読無、2011、192-213.
3. Toshino Iguchi, Standing at the crossroads: post-war design in Japan and the Japanese journal Design Hi-Hyo”, *Design and craft: a history of convergences and divergences, 7th Conference of International Committee of Design History and Design Studies*, Belgie, 査読有、October 20, 2010, 212-215.
4. 伊原久裕、アイソタイプのタイポグラフィへの貢献、*デザイン学研究特集号*、日本デザイン学会、査読無、Vol.17-2.No.66、2010、62-67.
5. 山本政幸、欧文タイポグラフィにおける読みやすさの客観評価、*デザイン学研究特集号*、日本デザイン学会、査読無、Vol.17-2.No.66、2010、68-73
6. 山本政幸、20 世紀ポスターコレクションのアーカイブ作成・公開に関する研究 (2)、*多摩美術大学研究紀要*、査読無、24 号、2010、171-176
7. 西村美香、The activities of Pieter Brattinga 抄訳、*明星大学研究紀要*、査読無、18 号、2010、34-35
8. 吉田紀子、醜いヌーディズム——1930 年代フランス、現代芸術家連盟批判に見る伝統主義とその背景、*デザイン理論*、意匠学会、56 号、査読有、2010、73-87
9. Toshino Iguchi, Avant-garde Design Beyond Borders: The Slovenian Constructivist Avgust Černigoj, *Proceedings of the 3rd Conference of International Association of Societies of*

Design Research, 査読有、October 20. 2009, Coex, Seoul Korea, CD-ROM.

10. Hisayasu Ihara, Rigor and Relevance in the International Picture Language: Rudolf Modley's Criticism against Otto Neurath and his Activity in the Context of the Rise of the “Americanization of Neurath Method”, *Proceedings of the 3rd Conference of International Association of Societies of Design Research*, 査読有、October 20. 2009, Coex, Seoul Korea, CD-ROM.

[学会発表] (計 8 件)

1. Hisayasu Ihara, Rudolf Modley's contribution to the standardization of graphic symbols, *Proceedings of IASDR 2011, the 4th World Conference on Design Research*, CD-ROM, 査読有, the Netherlands, November 3, 2011.
2. Toshino Iguchi, Standing at the crossroads :post-war design in Japan and the Japanese journal Design Hi-Hyo, *Design and craft: a history of convergences and divergences, 7th Conference of International Committee of Design History and Design Studies*, 査読有, Belgie, October 20, 2010
3. 山本政幸、モダン・サンセリフ活字書体の発達、*日本デザイン学会タイポグラフィ研究部会研究発表会*、2009 年 12 月 12 日、九州産業大学
4. Masayuki Yamamoto, Legibility Research on Japanese Typography, *Association Typographique Internationale*, 査読有、October 28. 2009, Mexico
5. Toshino Iguchi, Avant-garde Design Beyond Borders: The Slovenian Constructivist Avgust Černigoj, the 3rd Conference of International Association of Societies of Design Research, 査読有、October 20. 2009, Coex, Seoul Korea.
6. Hisayasu Ihara, Rigor and Relevance in the International Picture Language: Rudolf Modley's Criticism against Otto Neurath and his Activity in the Context of the Rise of the “Americanization of Neurath Method”, the 3rd Conference of International Association of Societies of Design Research, 査読有、October 20. 2009, Coex, Seoul Korea

7. Yasuko Suga, 'Projecting the Accessible Face of Modernity: Films and Publicity Design of the GPO', Projection of Britain Conference, 査読有、September 26. 2009, the university of Manchester

8. 山本政幸、アメリカ活字鑄造会社の設立とゴシック体活字の発達、日本デザイン学会春季研究発表大会、2009年6月27日、名古屋市立大学

〔図書〕(計8件)

1. Benjamin Benus, Christopher Burke, Hisayasu Ihara, Eric Kindel, Robin Kinross, Emma Minns, Sue Walker: *Isotype*, Hyphen press, London, 2012

2. Kaori Hamasaki, Toshino Iguchi, Yasuko Suga, Hisayasu Iharai, Masayuki Yamamoto, Mika Nishimura, 페이퍼 로드 - 紙的想像의 길/Reading Asian Culture on the Paper Road, 퍼넨곳. 두성종이(주), Seoul, Korea, 2012, 214.

3. 山本政幸、エリック・ギルのサンセリフ体活字、多摩美術大学、エリック・ギル—文字の芸術、2012、4-9

4. Yasuko Suga, GPO and Modern Design, Scott Anthony and James Mansell eds., *The Projection of Britain: A History of the Gpo Film Unit.*, London: Palgrave Macmillian, 2011

5. 井口壽乃監修、国書刊行会、モホイ=ナジ 視覚の実験室、2011、307

6. 浜崎加織、井口壽乃、菅靖子、伊原久裕、山本政幸、西村美香著、日本経済新聞社、20世紀のポスター [タイポグラフィ]—デザインのちから・文字のちから—、2011、229.

7. 西村美香、『プレスアルト』と本野精吾、松隈洋監修、京都工芸繊維大学美術工芸資料館・建築アーカイブ研究会、建築家本野精吾展 モダンデザインの先駆者、2010、158-161

8. 井口壽乃、附論「写真のポリティックス」、ミランカ・トージッチ、荒島浩雅訳、写真とプロパガンダ 1945-1958、三元社、2009、169-178

6. 研究組織

(1) 研究代表者

井口 壽乃 (Iguchi Toshino)

埼玉大学・教養学部・教授

研究者番号：00305814

(2) 研究分担者

伊原 久裕 (Ihara Hisayasu)

九州大学大学院・芸術工学研究科・准教授

研究者番号：20193633

西村 美香 (Nishimura Mika)

明星大学・造形芸術学部・准教授

研究者番号：60352928

山本 政幸 (Yamamoto Masayuki)

多摩美術大学・美術学部・准教授

研究者番号：80304145

井田 (菅) 靖子 (Ida Yasuko (Suga))

津田塾大学・学芸学部・准教授

研究者番号：20312910

(3) 連携研究者

池田祐子 (Ikeda Yuko)

京都国立近代美術館・学芸課・主任研究官

研究者番号：50270492

吉田紀子 (Yoshida Noriko)

中央大学・総合政策学部・准教授

研究者番号：20433873